

# 国産万年筆研究の課題

Project on Study of Japanese Fountain Pen

小池淳一

KOIKE Jun'ichi

はじめに

- ① 万年筆に関する先行研究
- ② 万年筆の仕組みと国内メーカーの特徴
- ③ 万年筆の製造と販売(1)
- ④ 万年筆の製造と販売(2)
- ⑤ 研究上の諸課題

おわりに

## 【論文要旨】

万年筆は近代になってそれまでの毛筆に代わる筆記具として日本人の生活に広く浸透した。本稿は民俗学における読み書き研究の一部として、この万年筆にまつわる研究課題を考えるものである。万年筆はこれまで、轆轤の技術の応用やそれに携わる職人の修行の問題として研究が重ねられてきた。胴軸のなかにインクを入れ、それを先端部に適量誘導して筆記を可能にする万年筆は日本では1910年代に現在まで続くメーカーが創立され、国内での生産が盛んになっていく。しかし群小メーカーの資料は乏しく、その点を聞き書きなどによって補う必要がある。ここでは「手作り」を標榜した小規模の万年筆製造に携わった東京の土田修一氏、大阪の加藤清氏からの聞き書きからその特徴を考えた。その結果、金属加工業との連携や技術の習得過程、職人氣質の問題、職祖神の近代、さらには消費者側からの視点などからの分析が必要であることが明らかとなった。

【キーワード】 轆轤<sup>ろくろ</sup>、読み書き、職人、手作り、製造業